

2021年度資金分配団体向け 公募前研修

～事前評価について～

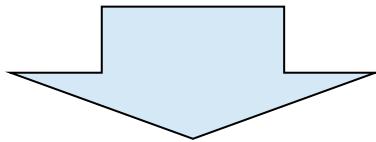
2021年3月23日 事業部 評価チーム



1. 何のために評価をするのか
2. 自己評価が基本
3. 評価の多様性を尊重



事前評価では
「様式」を埋めることに注力するのではなく
客観的な事実や、多様な関係者との協議に基づいて
事業の必要性や妥当性を自己評価し
事業実施価値を高めましょう。

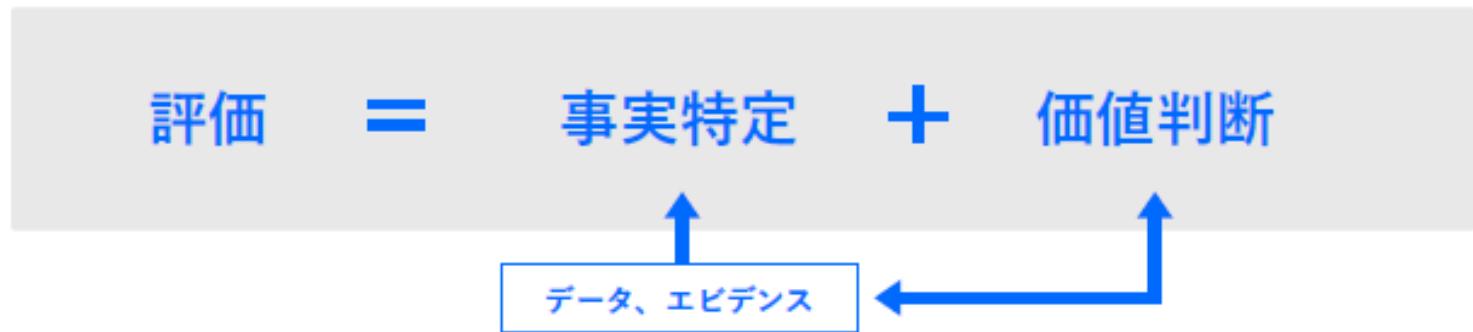


その結果として、
事業計画書・評価計画書を作成します。

評価とは

評価とは

評価とは、正確な事実を特定し、それをもとに事業の優れた点や有用性、価値を判断していくプロセスです。



※様式を埋めることが事前評価ではありません。

様式への落とし込みについてはJANPIA POもお手伝い可能です。



2020年度採択事業からの変更点

1. 評価を行う際のツール
2. 事前評価の実施手順
3. 報告内容の変更
4. 事業計画書の変更
5. 評価計画書の変更

1. 評価を行う際のツール



- 評価表ベースから⇒**事業設計図**をベースにした評価へ

| 評価の要素 | 評価項目 | 評価小項目 | 基準 | | 測定方法 | | | 評価時期 (複数可) |
|---------|----------------|---|--|--------|--------------------------|----------|------|---------------|
| | | | 判断基準値 (目標値／状態など) | 必要なデータ | 情報源 | データ収集方法 | | |
| 課題の分析 | ①特定された課題の妥当性 | 課題の問題構造を十分に把握しているか | (状態)課題の問題構造を十分に把握している | 定性データ | 各種統計 行政資料 | 文献調査 | 事前評価 | |
| 課題の分析 | ②特定された事業対象の妥当性 | 事業の対象グループはどのような問題・関心・期待・懸念などをもっているか | (状態)事業対象グループの問題・関心等を十分に把握している | 定性データ | 事業対象者 | アンケート調査 | 事前評価 | |
| 事業設計の分析 | ③事業設計の妥当性 | 最終的に解決したい目標を達成するための事業設計はできているか | 各種統計、文献調査の内容 (状態)十分妥当な事業設計になってい | 定性データ | 各種統計 事業対象者 過去の活動実績 | その他 | 事前評価 | |
| 実施状況の分析 | ⑤実施状況の適切性 | アウトプットは計画的に産出されているか(目標値との比較) | 「アウトプットの目標値」 事業計画書アウトプットの目標値との比較 | 定量データ | 活動実績 目標値 | 定量データの収集 | 中間評価 | |
| 実施状況の分析 | ⑥実施状況の適切性 | 事業計画のうち、新型コロナウイルスが対象者・活動計画に与えた影響と、追加助成によってどの程度緩和されたか。 | 事業計画書と活動報告書の比較とコロナ助成金を活用した事例の数 活動の実施状況又はアウトプットの状況 | 定量データ | 事業対象者 活動計画書 活動報告書 | 定量データの収集 | 中間評価 | |

事業設計図を作り、受益者・事業のロジックの検証しましょう！

2. 事前評価の実施手順



① 事業設計図の作成

② 事業設計図の検証

③ 事業計画書への落とし込み

④ 中間・事後評価計画書の作成

課題の分析
事業設計の分析

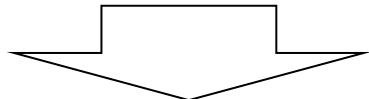


3. 報告内容：事前評価で提出する様式は二つ

- 事業計画書

- 評価計画書

「事前評価報告書」の様式は廃止しました。
事前評価で自己評価した事業の妥当性・必要性
は事業計画書に記載してください。



事前評価の成果品は、精緻化された事業計画書です。



4. 事業計画書の変更：二部構成へ変更

●事業計画書（契約書別紙1）

一項目のみ（事業名～Ⅰ.団体の社会的役割まで）

⇒変更には別紙変更申請が必要です。

●事業計画書詳細版

契約書別紙1 + II. 事業の背景課題

III. 事業設計

IV. インプット

V. 出口戦略・持続可能性

⇒変更は担当職員間で合意し、バージョン変更をしてください。事務手続きは不要です。

事業計画書 契約書別紙1



2021年度休眠預金活動事業 資金分配団体

| | |
|---------|--|
| 事業名 | |
| 資金分配団体名 | |
| 実行団体名 | |
| 事業の種類 | |

| | |
|-------|--|
| バージョン | |
|-------|--|

優先的に解決すべき社会の諸課題

| 領域 | | 1) 子ども及び若者の支援に係る活動 | 分野 | <input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 |
|----|--------------------------|--|----|---|
| | | | | <input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 |
| | <input type="checkbox"/> | 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動 | | <input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 |
| | <input type="checkbox"/> | 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 | | <input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援 <input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援 <input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援 <input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援 |

SDGsとの関連

| ゴール |
|-----|
| |
| |
| |
| |
| |
| |

| | | | | | |
|-------|--|-----------|--|-------|--|
| 実施時期 | | 直接的対象グループ | | 最終受益者 | |
| 対象地域 | | 人数 | | 人数 | |
| 事業の概要 | | | | | |

I.団体の社会的役割

| |
|-----------------|
| (1) 団体の目的 |
| (2) 団体の概要・活動・業務 |

事業計画書詳細版



II. 事業の背景・課題

(1) 社会課題

(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況

事業で取り扱う社会課題の問題構造等を、事実に基づいて記載

(3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義

III. 事業設計・目標設定

(1) 中長期アウトカム

事業を実施する必要性・妥当性の評価結果を事実に基づいてどのように判断したのか記載

| （2）短期アウトカム（資金支援） | モニタリング | 事後評価時の値／状態 | | |
|------------------|--------|------------|--|--|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

最後に



- 詳細は、団体ページ
「事業計画書・評価計画書の書き方」を参照してください。
- 事業設計図に基づいた事前評価の実施方法については実行団体向け評価ハンドブックを4月頭までに公開予定。
- 実行団体への事前評価説明に使用できる動画も公開予定です。





事前評価では
「様式」を埋めることに注力するのではなく
客観的な事実や、多様な関係者との協議に基づいて
事業の必要性や妥当性を自己評価し
事業実施価値を高めましょう。